

専門ゼミ B		演習	教 授 白 山 真 一	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目	科目ナンバリング	21300302	

1. テーマ

会計学の理論および実務に関する総合的な理解力の養成

2. ゼミのねらい・概要

会計学とは、会社など（会計主体）の活動情報を「いつ（認識）」・「いくらで（測定）」記録して作り出し、関係する人々（利害関係者）へ報告して、彼ら・彼女らが当該情報を利用して行動を決める（意思決定を行う）ことを検討する学問です。そのためには、①会計情報がどのように作成されるかというルールや考え方を学ぶ（財務諸表論）②会計情報がどのように報告されて利用されるのかを学ぶ（ディスクロージャー論・経営分析論等）③作成された会計情報がどうすれば正しいといえるのかを学ぶ（エンタープライズリスクマネジメント（ERM：Enterprise Risk ManagementD）を含む監査論等）が必要となります。本ゼミでは、これらの「3つの領域」について、理論的かつ実務的な基礎を学習することを目的とします。

なお、前期で学習した上記の①の領域を基礎として、後期では②及び③の領域の学習を対象とします。

3. ゼミ計画

第2回から第10回までの経営分析の授業では、簡単な解説をしたのちに、授業中に実際にMicrosoft Excelにて各種の分析指標を各自計算してもらい、理解を深めます。第11回から第14回までの授業では、割当担当者による発表（10分）、質疑応答・コメント等の議論（60分）を行います。

1. ガイダンス（今後のゼミの進め方など）	9. 企業価値の測定①（企業価値の意味、資本コスト）
2. 貸借対照表による支払能力・財務安定性の分析	10. 企業価値の測定②（EVA, キャッシュ・フロー予測）
3. 損益計算書による収益力の分析	11. 企業内容開示制度の基礎
4. 貸借対照表と損益計算書による資本運用効率の分析	12. コーポレート・ガバナンスの基礎
5. 投下資本利益率とデュポンシステム	13. ERMの基礎
6. 損益分岐点分析	14. 内部統制の基礎
7. セグメント分析	15. まとめ（卒業論文作成準備へ向けて）
8. キャッシュ・フロー分析	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

次のような予習・復習が必要になります。

【第2回から第10回】

- ①予習として毎回実施する基本テキストの該当章の読み込み（約1時間）
- ②復習として基本テキストに添付されている【応用問題】の実施（約1時間）

【第11回から第14回】

- ①予習として割当発表者は発表レジュメ（パワーポイント3～5枚程度）の作成（約2時間）、各人は毎回実施する内容の読み込み（約1時間）
- ②復習として毎回課す【理解度テスト】の実施（約1時間）

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

終了時に提出してもらうレポートについて個別に講評（理解が不十分な点や今後の課題など）コメントします。コメントの通知方法については事前に連絡します。

6. ゼミにおける学修の到達目標

上記2. に記載の「3つの領域」の基礎知識を立体的に組み合わせ、総合的に理解できるような専門的知見の基礎を有

する“会計人”の入り口に立つようになること。結果として日商簿記，公認会計士，税理士，中小企業診断士，証券アナリストなどの各種試験のうち会計関連科目の合格レベルに至る基礎力を身に着けることになること。

7. 成績評価の方法・基準

終了時に課すレポートの内容（60%）およびゼミに対する取り組み姿勢（40%）。

8. テキスト・参考文献

第2回から第10回までは「新訂版 財務諸表分析入門－Excel®でわかる企業力－」（株式会社ビーケーシー）を基本テキストとして利用します。第11回から第14回までのテキスト等については，授業中に提示します。

9. 受講上の留意事項

授業では具体的な計算などを実施するので，Excel®がインストールされたPC及び電卓を必ず持参してください。また，基本テキストに添付されているCD-ROMは事前にPCに取り込んでおいてください。

本ゼミでは「会計を通じて社会を理解し課題を認識する能力の養成」と「ゼミに対する取り組み姿勢」を重視します。「今まではあまり勉強してこなかったが，これからは気合を入れなおして頑張りたい」という前向きな方と一緒に勉強していきたいと思います。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，監査法人における公認会計士及び会計アドバイザー業務の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。